

長野県における流域治水の 今後の取組について(案)

令和8年3月16日

長野県における流域治水の今後の取組について(案)

【長野県における流域治水の取組みの推進・深化】

【令和3年度～】

「長野県流域治水推進計画」(令和3年2月策定)

計画期間：令和3～7年度(5か年)
 内容：計画期間内で実施する取組目標を定め「流域治水」を推進

流域における雨水貯留等の取組
「留める」

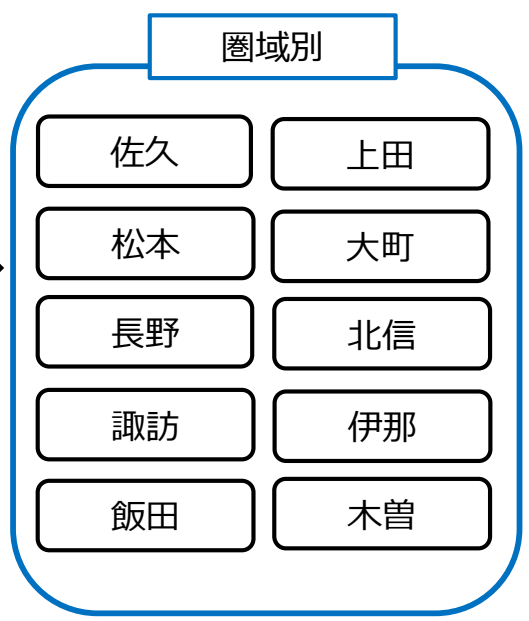
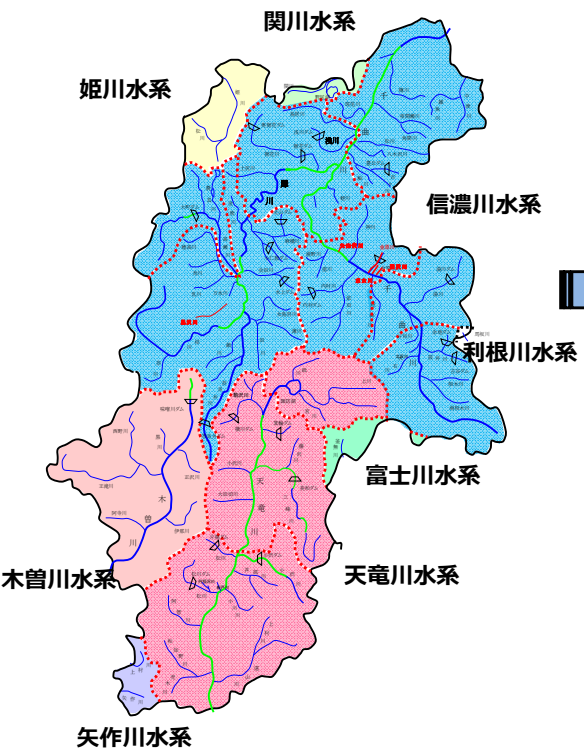
まちづくりや住民避難の取組
「備える」 ~逃げ遅れゼロ~

⇒ 長野県流域治水推進計画による普及啓発により「流域治水」という意識の醸成は図られつつあるが、**更なる取組が必要**

⇩ 「水害リスク」を『自分事』と捉え、流域対策を『行動』に移行

【今後の展開(案)】

- 地域の治水上の課題や今後のまちづくりの在り方を踏まえ、支川や上流域等の小流域(スモールスケール)で流域治水の取組を議論
- 様々な流域対策を組み合わせることによる効果の「見える化」を行い、更なる参加機運の醸成や合意形成の促進を図り、流域治水を推進する



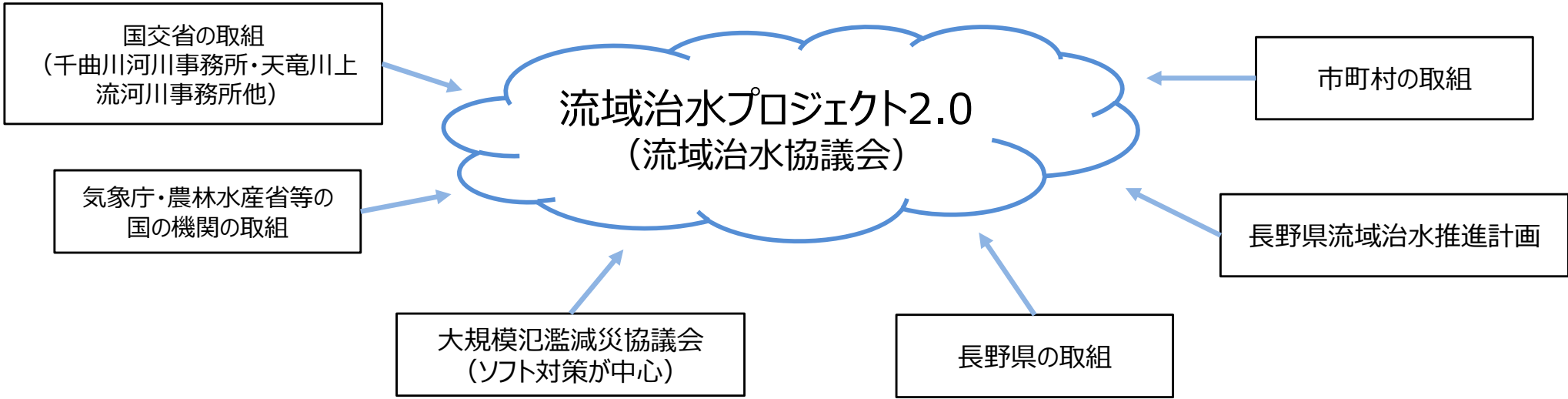
- ✓ 県内全域を対象とした長野県流域治水推進計画をR3～R7の5か年で取組を実施
- ✓ 取組を加速化・深化するため、地域の実情に即した流域対策の目標を設定
- ✓ R8～R12の5年間に取り組む内容とする
- ✓ 様々な対策を組み合わせること、更なる参加機運の醸成や合意形成の促進を図り、流域治水を推進する



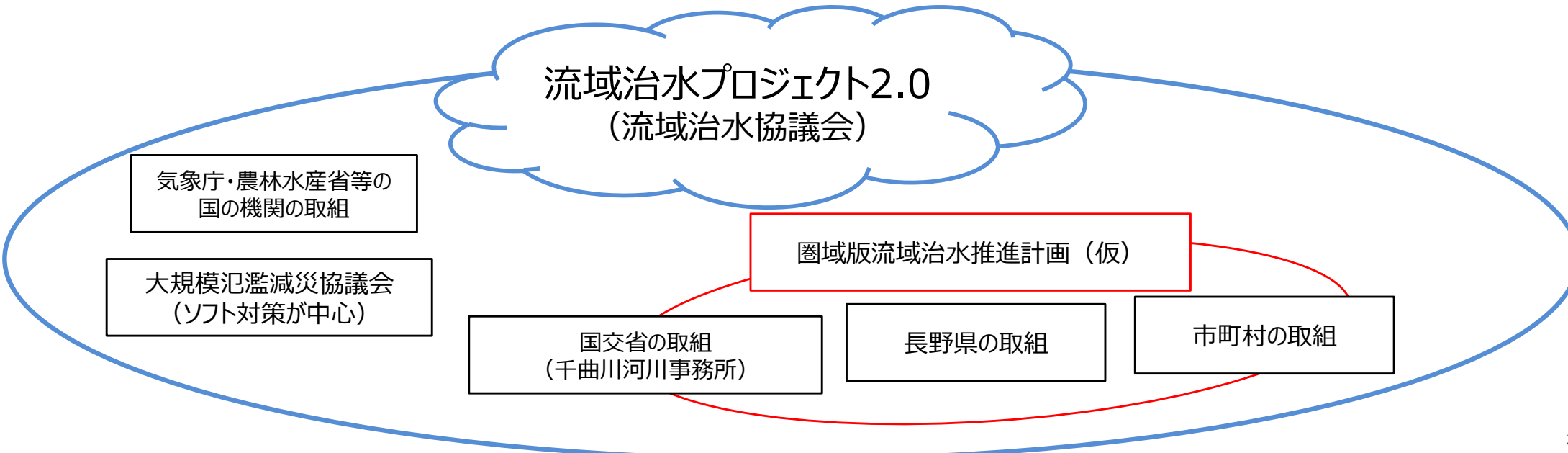
10圏域に分け、地域毎に目標に向かい流域治水の取組を推進する圏域別流域治水推進計画(案)を策定

流域治水プロジェクト2.0と圏域版流域治水推進計画(仮)の位置付け

【～R7まで】○水系ごとの流域治水プロジェクト2.0は、様々な機関や各種計画の「流域治水」に関連する取組を組み合わせで作成



【R8から～】○圏域版流域治水推進計画では、地域の課題や強みを反映した取組の加速化を目指す



【令和3年度～令和7年度】

①ステップ1（知る）
【水系】流域治水プロジェクト R3～
【県全域】長野県流域治水推進計画 R3～R7



【令和8年度～令和12年度】

ステップ2（自分事化、行動）
圏域版流域治水推進計画（仮） R8～
流域治水プロジェクトや長野県流域治水推進計画等からより具体化・細分化
（地域毎の課題・取組による推進）

Plan【計画・目標】

- ・水災害リスクを把握し、課題や取組状況を反映した圏域別流域治水推進計画（仮）を作成
- ・市町村や関係者と意見交換や議論を行い目標を共有する

水災害リスクの把握

- ・過去の災害履歴
- ・降雨状況
- ・河川整備状況
- ・土地利用状況
- ・浸水想定区域図
- ・水害リスクマップ
- ・用排水路整備状況
- ・下水道整備状況（雨水渠）
- ・内水ハザードマップ
- ・貯留施設（ため池、貯留施設等）
- ・避難計画など

【年度毎に行うサイクルを想定】

大規模氾濫減災協議会等を活用し議論

国・県・市町村
河川管理・防災・教育

Do【実行する】

・位置付けた取組を各自が実行する

- ①「流す」取組
堤防・護岸整備
河道掘削・支障木伐採 など
- ②「留める」取組
雨水貯留浸透施設等の設置
ため池・田んぼダム・グラウンド貯留 など
- ③「備える」取組
地区防災マップ作成支援
マイ・タイムラインの作成支援
避難計画策定 など

Act【改善】

- ・改善点や取組の拡大等、計画を更新する
- ・関係者との議論を重ね、必要に応じて計画の見直し、追加を行う

Check【評価・進捗管理】

・取組状況の把握・進捗管理

01 (2) 河川・ダム

01 流域治水の
加速化・深化

02 流域総合水管理
の推進

03 流域総合水管理を
横断的に支える取組

04 南海トラフ地震等の
大規模災害への対応

参考資料

流域のあらゆる関係者の協働を駆動する流域対策効果の見える化

○ 支川流域や上流域等の小流域(スモールスケール)で、地域の治水上の課題や今後のまちづくりのあり方を踏まえ、オーダーメイド方式で目標を設定し、流域対策効果の見える化を行うことで、自らの取組の効果が実感されることによる参加機運の醸成や合意形成の促進を図る。

背景・課題

- 流域治水の推進は、あらゆる関係者の協力が必要であり、そのためには参加機運を醸成することが必要。
- 中高頻度で発生する降雨により支川流域や上流域等の小流域(スモールスケール)で生じる洪水や内水に対して、地形や土地利用の状況を踏まえ、様々な流域対策を組み合わせることが必要。
- 一方、様々な流域対策を組み合わせることにより被害を防止・軽減させる流域対策の目標や効果を適切に示すことができていない。
- 地域の治水上の課題等を踏まえ、地域の実情に即した目標を設定した上で、様々な流域対策を組み合わせることによる効果を見る化することで、関係者に取組の効果が実感され、流域対策への参加機運が高まり、更なる施策のベストミックスが図られることが期待される。

今後の取組

- 上流域や支川流域等の小流域(スモールスケール)で、地域の治水上の課題や今後のまちづくりのあり方を踏まえ、オーダーメイド方式で目標を設定し、流域対策効果の見える化を行う。

流域対策の目標設定と効果の見える化のイメージ

【例：床上浸水解消に着目した目標設定】

流域対策メニュー：雨水貯留施設整備、田んぼダム、貯留機能保全区域による貯留 等



・家屋は床下浸水と床上浸水で被害が大きく異なることがポイント ⇒床上浸水戸数等で評価



・農地の浸水被害は、収穫への影響がポイント ⇒浸水継続時間等で評価

小流域にフォーカス

関係者と協働して行う流域対策例

雨水貯留施設

田んぼダム(調整板設置)

中高頻度で発生する降雨に対して効果を発揮する流域対策の実施を促進し、地域の治水安全度向上を実現。

中高頻度で発生する浸水被害例

流域対策で被害軽減に取り組む小流域